

## カザフスタンの持続可能性について

株式会社グッドバンカー  
リサーチチーム

以前、中央アジアのウズベキスタンについてご紹介しました。ウズベキスタンは独立後、目覚ましい経済発展を遂げている一方、アラル海の消滅という水問題を抱えています。このことについて、同国のある政府関係者と話す機会がありました。しかし、その返答は「環境規制を強化すれば、海外企業の参入が減る」というものでした。

ひるがえって隣国のカザフスタンは、化石燃料資源が豊富で、中央アジアの中では最も発展しています。石炭依存度がかかなり高かったのですが、2009年には再生可能エネルギー資源を利用したエネルギー支援法を成立させ、低炭素社会への変革を図っています。2010年には、2020年までに温室効果ガスの排出量を1992年比15%減とする自主計画を策定しました。

2012年に行われた同国初の太陽電池モジュールの生産工場の起工式典には、大統領も出席しました。最大100MWの容量を持つモジュール生産工場は、ISO9001の品質規格に加え、環境マネジメントシステムのISO14001やOHSASといった労働安全衛生規格も取得しています。工場の屋根には太陽光発電や風力発電があり、ヒートポンプユニットも設置されています。工場に勤務する200人以上の地元の専門家の大部分は、海外のメジャー大学を卒業しており、専門のコースを受けているなど、人材育成も進んでいます。

さらに、2013年に大統領はグリーン経済への移行を宣言し、2050年までに国内のエネルギーの半分を代替的供給源で賄うことが目標として掲げられました。また、国内法の改正により、価格設定に対するインセンティブを通じた再生可能エネルギーへの投資拡大が図られています。「2020年までのカザフスタン共和国発展戦略計画」では、2020年までにエネルギー総消費量における代替エネルギー源の利用の割合について、中期目標を発表しました。そのために、新たな再生エネルギー発電容量を導入する計画です。中央アジアは砂漠が多く、夏の日照時間が長いので、太陽光発電は有効に活用できるのではないのでしょうか。

実は、2013年にカザフスタンの経営者団体の関係者が弊社を訪れ、SRIの仕組みやISO14001などの国際規格について熱心にヒアリングしていただきました。その後、この関係者の経営している企業グループのホームページには、社会的責任と職場の環境安全基準に基づいた事業活動を行うことが明記されています。当社のレクチャーが、少しは役に立ったのかもしれませんが。

カザフスタンは中央アジアにおける先進的な例と思われますが、多くの途上国は前述のウズベキスタンの関係者のように、環境対策は経済成長の妨げと考えています。SRIのように、投資する側が持続可能性の観点を持つことで、その意識を変えていくことが可能になるのではないのでしょうか。

(参考資料)

外務省「対カザフスタン共和国 事業展開計画」(2015年4月現在)

国連開発計画「炭素経済からグリーン経済へ：カザフスタン」(2014年10月15日)

日本カザフスタン投資環境整備ネットワークホームページ (<http://www.jp-kz.org/>)

ASTANA SOLAR 社ホームページ (<http://www.astanasolar.kz/en/about-us>)